

南越稲作情報（H22版） No3

—稲の生育量に合わせて穂肥施用を！！—

丹南農林総合事務所 農業経営支援部

1 稲の生育について（コシヒカリ）

- ・ 全体的に分げつは少なく、草丈は長くなってきています。
- ・ 葉色は濃く推移していましたが、今週薄くなってきました。
- ・ 5月中旬移植と直播で7月12日～16日に幼穂形成期（幼穂長 2mm）となる見込みです。

2 中干しについて

- ・ まだ、中干しを実施していないところでは、早急 to 実施してください。

3 病虫害対策について

- ・ いもち病の好適条件が続いているので、葉いもちをみかけたらブラシン等で早急に防除しましょう。
 - ・ 紋枯病が散見されます。見かけたらモンカット粒剤やリンバー粒剤により防除しましょう。
- ＊ 特別栽培米生産圃場では栽培計画内容を確認してから散布を行ってください。

4 倒伏対策について

- ・ 幼穂形成期の草丈 80cm 以上、葉色 4.5 以上の場合
- ・ 上位第3葉身長が 45cm を超える場合
スマレクト粒剤 2～3kg/10a（出穂 15～10 日前、幼穂長 10～50mm 時）
またはビビフル粉剤 3～4kg/10a（出穂 10～5 日前、幼穂長 110～170mm 時）を散布してください。

5 穂肥について

- ・ 稲の生育量に応じて施肥しましょう。（一括肥料を施肥している場合は、基本的に追肥しない）

穂肥（ほごえ彩ゆうき）の目安

		(kg/10a)	
	葉色	穂肥1回目 幼穂長10～15mm時	穂肥2回目 1回目の7日後
生育不良	3.5以下	20	15
適正生育量	3.5	15	15
生育やや過剰	4.0以上	10	15
生育過剰	4.5以上	0	15